

会報

山口七夕会

令和4年(2022年)9月

第49号

発行：会報編集委員会／

山口市七夕会事務

題字/書・原野和夫氏



瑠璃光寺 五重塔

目次は 5ページにあります。

会長挨拶

変化を続けるふるさと山口市



「コロナは治まったか」と安堵した時期もありましたが、いま思えばその時が第7波の始まりでした。ただ、今度の流行には政府も緊急事態宣言などの行動制限を出さず「ウイズ・コロナ」の構えで、イベント等の開催も国民の判断に委ねる姿勢になりました。ワクチン接種も進んで来ており、七夕会では先日7月30日に七夕会総会を開催することに決めました。

今回は前回の総会（昨年10月9日）とは異なり、山口市から伊藤市長、入江市議会議長はじめ山口市役所の幹部役職員にご参加頂き、伊藤市長から山口市政方針の分かりやすく、また親しみのある説明を伺うことが出来ました。山口市の名産品紹介や美味しい日本酒を振舞って頂くという企画も市役所の役職員の方々により行われました。また七夕会山口本部から申神本部長・松西事務局長にもご参加頂くなど、いろいろな角度から首都圏と山口市との交流を果たすことが出来たと思います。

続いて行われた交流会での講演では山口市出身の元陸将の住田和明さんから時宜を得た「日本の安全保障」の話を伺うことが出来ました。講師をして下さった住田元陸将のお人柄と講演内容の素晴らしさから聴衆の心に深く印象を刻む講演となりました。

前回もお願いしましたが、七夕会の機関紙を「会報」に統一させて頂いたのを機会に是非皆様からのご寄稿を多数お願いしたいと思います。特に「ふるさと山口市」に関する現在・過去の情報の収集・拡大を期待しています。また会報での情報交換だけでなく、3年前から会則に規定された「ふるさと山口の発展に寄与する」という七夕会の目標に向け、首都圏の会員と地元山口の会員相互の交流を従来にも増して行います。これまで山口七夕会に関与して下さった多くの方々のご努力とご支援に改めて御礼申し上げますと同時に、新しい形での七夕会の運営をお願いする次第です。

大内文化に支えられた山口市。室町時代からの「ちょうちん祭り」が七夕会の起源でもあります。伝統を大切にしてきた山口市では、コロナで中止を余儀なくされていた「ちょうちん祭り」を今年を行うことが出来ました。七夕会としても「ちょうちん祭り」の再開を大変うれしく感じた次第です。この様な伝統行事の継続とともに、一方で七夕会に新しい動きが始まっています。お世話役をしている役員の方々が若い人たちの心に訴える企画をどんどん考え実行してくれています。新しい通信ネットワークを通じて若い人たちに七夕会企画への参加を呼び掛けています。若い人々が七夕会をさらに盛り上げて下さることを期待しています。

すでに3年前から「山口七夕ふるさと大使」の委嘱が行われ、今回の総会でも「山口七夕ふるさと大使」の委嘱が山口市長から直接行われました。この様な活動を通じて文化の香り漂う街「ふるさと山口市の発展に寄与する」為に今後とも七夕会を通じて努力して行きたい、会員皆様のご協力とご支援を賜りたいと思います。

令和4年（2022年）9月

山口七夕会 会長 秋草史幸

祝 辞

山 口 市 長



山口七夕会会報第49号の発行に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

秋草会長様を始め、会員の皆様方におかれましては、平素から、山口七夕会の活動を通じまして、新たな交流の創造や、首都圏を始めとする市内外への本市の魅力発信など、本市の発展に多大なる御支援と御協力をいただいておりますことに、心からお礼申し上げます。また、本年は、実に3年ぶりに、総会やふるさと山口本部夏の講演・交流会に参加をさせていただき皆様にお会いできましたこと、大変嬉しく思っております。東京で開催されました年次総会では、貴重なお時間をいただきまして、御臨席を賜りました皆様に、最近の山口市のまちづくりの状況を発表させていただきました。残念ながら御出席が叶わなかった会員の皆様にも、本誌面を少し頂戴し、簡単ではございますが本市の近況を御紹介させていただきます。

本市では、合併後、県中部において求心力のあるまちを創っていくという思いのもと、新幹線駅、病院、商業などの都市機能をしっかりと集積し、若者の雇用の場もしっかり確保するなど、山口県全体の発展に貢献する県都としてのまちづくりを進めてまいりました。農山村も市街地も発展する、言わばオール山口の発展を目指しております。そうした中、新山口駅を中心とした小郡都市核づくりを先行して進め、平成27年10月には橋上駅舎と南北自由通路の供用開始、そして令和3年7月にはKDDI 維新ホールをグランドオープンしたところでございます。また、現在は、山口都市核の基盤整備を進めており、その一つとして、新本庁舎整備や中心商店街の整備、さらには、県内最大の宿泊、飲食店などの集積地でございます、湯田温泉の再生整備に着手しております。

こうした、小郡や山口の市街地エリアの整備とともに、本市の美しい農山村を守りたいという思いから、本年4月に農林水産部を設置し、農業所得の向上、担い手の確保、農業競争力の強化、移住定住などに全力で取り組んでおります。また、あらゆる地域を支える拠点づくりとして、各地域交流センターの建て替え整備などを順次進めており、本年5月には阿知須地域の総合支所・地域交流センターが完成し、そして秋には徳地地域の地域交流センターが総合支所等と合築整備の上、オープンする予定でございます。そして、阿東地域においては、道の駅長門峡のリニューアルオープン、秋穂地域においては、道の駅あいおの移転整備を進めてまいるなど、農山村における地域の拠点づくりや、交流人口の創出など、オール山口の発展につながる取組を進めているところでございます。さらに、現在は、山口大学と連携した中山間地域のスマート農業の導入も進めており、省力化、効率化を通じて、本市の農業を守る取組も進めております。

こうした様々な取組によりまして、本市におきましては、「これが私のふるさとだ」と多くの市民の皆様にご誇りと愛着を感じていただける、そうしたまちづくりを、これからも全力で進めてまいる所存でございます。

山口七夕会の皆様におかれましては、引き続き、本市の目指すまちづくりに向け、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、山口七夕会の今後益々の御発展と、会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

山口市長 伊藤 和貴

祝 辞

山口市議会議長



山口七夕会会報第49号の発行に当たりまして、お祝いを申し上げます。

秋草会長様を始め、会員の皆様におかれましては、ふるさと山口市を愛する貴会の活動を通して、会員相互の交流を図られながら、本市の発展に多大なるお力添えをいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

私は本年5月に議長を拝命いたしまして、7月に東京で開催されました年次総会に、議長という立場として初めて参加をさせていただきました。改めて、御参会の皆様のおふるさと山口市への想いの深さに感銘を受けますとともに、本市を応援してくださる皆様の存在を心強く感じたところでございます。引き続き、本市の魅力を存分にアピールしていただくなど、本市のイメージアップやシティセールスに御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本市におきましては、第二次山口市総合計画における将来都市像に「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口 ～これが私のふるさとだ～」を掲げ、市民の皆様が誇りをもって豊かで安心して暮らせるまちづくりの実現に向け、新型コロナウイルス感染症への全力の対策を始め、将来にわたって発展する県都づくりなど様々な取組が進められています。

このような中、去る8月6日、7日の2日間、日本三大火祭りの一つでございます「山口七夕ちょうちんまつり」が3年ぶりに開催されました。コロナ禍ということもあり、提灯山笠と御輿巡行や一部のイベントを減らすなど規模は縮小されましたものの、中心商店街や一の坂川 交通交流広場などには火を灯した沢山のちょうちんが飾られました。両日で約18万人という多くの方々がその幻想的な光を楽しまれ、山口の夏の風物詩が戻ってきたことを非常に嬉しく感じたところでございます。併せまして、一日も早くこうした市民の皆様様の平穏な日常生活と、活力ある経済を取り戻せますよう、引き続き、政策に対するチェックや提言などを議会一丸となって果たしていかなければならないと思いを強くしたところでございます。

また、山口市議会におきましては、昨年12月に、議員提案による4つ目の政策条例となります「山口市みんなの手話言語条例」を制定いたしました。本条例は、本年4月1日から施行し、手話への理解促進と手話の普及を図ることを目的とした手話体験講座の開催や、手話通訳者等の人材育成など、誰もが手話を使用しやすい環境を整える取組が進められております。

市議会といたしましても、引き続き、多様化、複雑化している地域課題を解決するため、市民の皆様様の声をしっかりお聴きし、誰もが住み慣れた地域で安心して豊かに暮らせる地域社会の実現へとつながるよう、鋭意努力してまいりますので、山口七夕会の会員の皆様におかれましても、今後とも山口市議会に対しまして御指導、御助言を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たりまして、山口七夕会の今後益々の御発展と会員の皆様のおなご一層の御多幸、御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

山口市議会議長 入江 幸江

< 目 次 >

頁 1 表紙「瑠璃光寺 五重塔」	頁 14 ベンチャーズは永遠のアイドル
頁 2 会長挨拶	頁 15 令和4年度山口七夕会ふるさと山口本部 「夏の講演・交流会」(報告)
頁 3 山口市長祝辞	頁 16 これが私の《第二の》ふるさとだ よそ者が見る山口市
頁 4 山口市議会議長祝辞	頁 17 新入会員及び法人会員の皆さん
頁 5 目次 / 令和3年度の活動記録	頁 17 新任の山口七夕会ふるさと大使
頁 6-7 令和4年度年次総会(報告)	頁 18 役員一覧(令和4年7月30日付)
頁 8 瑠璃光寺五重塔・令和の大改修について	頁 19 イベント予告
頁 9 大使の一言	頁 20 会報山口七夕会への投稿を募集します
頁 10-11 山口七夕会初の試み 「ストリートピアノとコラボイベント」開催	頁 20 編集後記 / 事務局からのご案内
頁 12-13 ノリ・海苔こそ百薬の長	

令和3年度の活動記録

【協力事業】

- ◆令和3年7月2日(金)、9月2日(木)、
令和4年3月24日(木)
(東京)首都圏ー山口ネットワーク推進協議会
への参加

【有志参加】

- ◆令和3年10月1日(金)
(山口)全国一斉日本酒で乾杯2021 in
セントコア山口への参加
於：セントコア山口
- ◆令和3年10月9日(土)
(東京)年次総会
於：インテリジェントロビー・ルコ
講演：佐山に生まれた長州藩士・石川小五郎
(河瀬真孝)の生涯
講師：河瀬真人氏

- ◆令和3年11月12日(金)
(東京)ゴルフ同好会第4回八木重二郎杯
於：PGM 武蔵ゴルフ倶楽部

- ◆令和3年11月14日(日)
(山口)秋の講演・交流会
於：セントコア山口
講演：もしもザビエルが白狐伝説を語ったら
講師：梅尾泰巖氏

【協力事業】

- ◆令和3年11月23日(火)
(東京)「三茶でやまぐち食べちゃる祭」への
協力

- ◆令和3年11月30日(火)
(東京)他団体との交流会への参加

- ◆令和4年3月5日(土)
(山口)第5回酎祭
於：セントコア山口
講演：山口地酒の魅力を教え、伝える
講師：宮川和也氏

- ◆令和4年3月27日(日)
(東京)春の交流会
於：インテリジェントロビー・ルコ
講演：変わりゆく今だから伝えたい珠玉の
名言
講師：頭木弘樹氏

- ◆令和4年3月27日(日)
(東京)お花見ウォーキング
於：靖国神社～北の丸公園～皇居外苑

令和4年度年次総会（報告）

本部・幹事 岡崎 龍也（会員 No. 702）

令和4年度年次総会は、山口市長をはじめ山口市からの来賓を3年ぶりに迎え7月30日（土）10時より東京飯田橋のインテリジェントロビー・ルコで開催された。会員の出席者は42名。冒頭、亡くなられた竹重高志監査役を偲んで黙祷を行った。秋草会長のご挨拶に続き会長を議長として議事に入った。審議の結果、第一部の全ての議案が異議なく承認され、総会第二部に移行した。

【総会第一部】

R3年度 事業報告・監査報告、決算報告

R4年度 事業計画案・予算案

R4年度評議員補充選任

R4年度監査役補充選任

新顧問指名

本部役員・ふるさと山口本部役員紹介

【総会第二部】

伊藤和貴山口市長挨拶及び市政紹介

入江幸江山口市議会議長祝辞

「山口七夕ふるさと大使」任命及び代表者挨拶

山口市ふるさと納税のご案内

瑠璃光寺五重塔令和の大改修

クラウドファンディング案内

繁永俊之 山口県東京事務所長祝辞

伊藤和貴山口市長の市政紹介では、市職員として山口情報芸術センター（YCAM）整備で活躍された経歴、「オール山口の発展」を掲げ、県内最大のKDDI維新ホール、新本庁舎整備など都市核づくりや、美しい農山村を守る市政の取組についてお話いただいた。



伊藤和貴山口市長挨拶及び市政紹介



入江幸江山口市議会議長祝辞



瑠璃光寺渡邊博志住職「五重塔改修」について

村田山口市商工振興部長より山口市ふるさと納税についてのPRがあり、会員の方々に「外郎」と「秋穂くるまえびの手拭」が提供された。

入江幸江山口市議会議長祝辞では、県内初めての女性市議会議長として、女性の視点・感性を生かして行きたいとのお話や、8月に開催される山口七夕ちょうちんまつりの紹介があった。

「山口七夕ふるさと大使」には国際的オンラインイベントを主宰し、山口の魅力の世界に発信されている花柳寿寛福様が任命された。

24年ぶりの改修となる瑠璃光寺五重塔「令和の大改修」は、総工費約7.6億円の一部をクラウドファンディングで調達することをその計画の基礎としているところであり、同クラウドファンディングプロジェクト実行委員会に山口七夕会も参画している。同じく実行委員会に参画する山口観光コンベンション協会の田中事務局長と渡邊博志瑠璃光寺住職が総会に同席され、御住職から、プロジェクトについての説明と七夕会会員に対しての協力依頼がなされた。

最後に繁永俊之山口県東京事務所長から祝辞を頂戴した。また、山口県立美術館で開催中である庵野秀明展の招待券が提供された。



元 陸上総隊司令官 陸将 住田和明氏による講演会

総会に引き続き元 陸上総隊司令官 陸将 住田和明氏による講演会が開催された。テーマは「激動する安全保障環境と我が国の防衛」。ロシアによるウクライナ侵攻は唯1人の専門家を除いて誰も予想していなかった。ウクライナ戦争は、サイバー、電磁波、情報戦等をとまなうハイブリッド戦であり、ドローンをはじめ最新兵器が使用されている。ロシアによる核の使用に言及しての威嚇は、核抑止戦略の見直しなど、日本の安全保障政策に大きな影響を与えている。日本の防衛費は安倍政権になり増加してきたが、厳しい安全保障環境を踏まえ国防態勢整備が必要である、等が述べられた。長年日本の防衛に携わって来られた元 陸上総隊司令官としての覚悟と矜持を感じる素晴らしい講演会であった。



講演会終了後、交流会を実施した（58名参加）。中川山口市総合政策部長による乾杯のご発声から始まった。また、今話題の名酒、新谷酒造の「わかむすめ」の試飲をはじめ、大内塗、外郎などふるさと山口の名産品の展示・販売が行われた。

衆議院議員高村正大様、前山口七夕会本部長相山俊哉市議、新会員・新役員の皆様方のご挨拶を挟み、和やかな雰囲気での交流会が進んだ。最後に恒例となった秋草会長・渡邊副会長による男声合唱デュオ、岡本浩次会員による能「田村」の舞が披露され、盛り上がりのなか中締めが行われた。

（写真）

上段：衆議院議員高村正大様ご挨拶

下段：岡本浩次会員による能「田村」の舞



特別寄稿

国宝瑠璃光寺五重塔・令和の大改修について

瑠璃光寺五重塔クラウドファンディングプロジェクト実行委員会

国宝瑠璃光寺五重塔は、山口を拠点にかつて西国一の力を持った守護大名・大内義弘公を弔うため1442年に建てられました。奈良の法隆寺五重塔、京都の醍醐寺五重塔とともに日本三名塔に数えられる山口市唯一の国宝であり、年間50万人を超える観光客が訪問する山口市の観光のシンボルです。こうした中、2019年10月の首里城火災を踏まえた防火体制の強化を図るための消防設備等の整備や、前回の葺き替えから約24年が経過し、台風等による傷みが進んでいる檜皮葺の屋根の改修工事を実施する必要があります。



高さ30mを超える木造建築物の改修工事や最新の消防設備の整備を実施するには、現時点で総額約7億6千万円の経費が見込まれ、国・県・市からの補助金をいただいても、なお多額の所有者負担金が必要であり、その額は瑠璃光寺や檀家の負担だけでは賅えないことが判明しました。

国宝であれば拝観料を改修費や整備費等に充てることが一般的ですが、瑠璃光寺五重塔は香山公園の中にあり、拝観料は頂いておりません。そこで、地元の観光産業関係団体が中心となって、国宝瑠璃光寺五重塔の保存とともに、山口市の誘客・交流人口を維持発展させることを目的に、クラウドファンディングを実施することとし、「国宝瑠璃光寺五重塔令和の大改修クラウドファンディングプロジェクト実行委員会」の設立に至りました。実行委員会には、瑠璃光寺と総代会のほか、山口商工会議所、山口観光コンベンション協会、山口七夕会が名を連ねました。地元企業や市民の皆様、また、山口市にゆかりのある方などへ広くご支援を呼び掛けていきます。



また、今回のクラウドファンディング実施にあたり、山口市出身のオリンピックメダリストである、柔道の**大野将平**選手と卓球の**石川佳純**選手のお二方に、寄付に伴う返礼品などでご協力いただきます。返礼品は、瑠璃光寺五重塔の写真集や特別御朱印など限定の品々を準備しております。

クラウドファンディングプロジェクト実行委員会は9月2日、山口市で記者会見を開き、支援をスタートさせる予定です。クラウドファンディングは22年秋(9月～11月)、23年夏、24年春の三回に分けて実施します。詳細な情報は、特設サイト (<https://rurikoji-cf.com/>) にアップしていきます。



瑠璃光寺は五重塔を柵内で鑑賞できる特別拝観を独自に実施して直接寄付を募るほか、山口観光コンベンション協会は「私と五重塔」をテーマにしたエピソードを募集し、瑠璃光寺五重塔支援を推進する計画です。SNSのTwitter (<https://twitter.com/RYcjcFTkxg46Q3/media>) や Instagram

(https://www.instagram.com/rurikojigojunotou_yamaguchi/) でも優美な瑠璃光寺五重塔の写真積極的にアップし、支援の輪を広げていく取り組みを始めています。

山口市唯一の国宝である瑠璃光寺五重塔を次世代へとつなげるため、皆様からの温かいご支援を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

大使の一言

山口七夕ふるさと大使 岡本 暁彦（会員 No. 491）

お世話になっております。令和3年8月1日に山口七夕ふるさと大使を委嘱いただきました岡本と申します。今回初めて寄稿させていただきます。

私も七夕会歴が10年近くになるのでご面識のある方もいらっしゃるかと存じますが、最初に簡単な自己紹介と、近況報告をさせていただきます。私は山口市大内の出身で、大内小、大内中、山口高校と18歳まで過ごしました。その後一度山口を出て、2011年に山口市に戻りました。山口市吉田にある山口大学時間学研究所で3年ほど働きまして、体内時計や睡眠の話七夕会、大内倶楽部、また東京山口県人会の防長倶楽部本会などでお話させていただいたこともあります。2015年頃からは東京に拠点を移しました。現在は製薬企業で働いています。様々なことをやらせていただいているのですが、個人的テーマとしては、一般生活者が認知症や睡眠に対して持つ憂慮を解消することを夢として、日々奮闘しています。

さて、上記にも挙げたように、幼少期から青年期、それと社会人になってからそれぞれ山口市で過ごすとは、私には違う町に見えました。行動範囲が広がり、金銭的な制限が多少解消されたことが原因にもなりますが、ひと言でいえば山口市は文化が豊富だと思います。私は現時点で青森県以外全国津々浦々行きましたが、国宝五重の塔とキリスト教開拓のシンボルと言えるサビエル記念聖堂が同時に存在し、また大内氏による小京都が同時に融合した土地は珍しいです。また大学やYCAMといったアカデミックな機関、温泉や食事処、最近ではレノファ山口の活躍もあって、個人的には非常に満足度が高い街です。

しかし東京にいと山口県民はレアな存在です。自己紹介をしても山口県に行ったことがないという人は非常に多いのですが、そもそも山口県民は全日本人の1%しかおらず、更に山口市出身となるとかなり少数派です。自己紹介で山口市出身と言っても初見ではあまり伝わりません。最近では、私はこれを逆にアイデンティティーとしています。特に「山口七夕ふるさと大使です」、と言えば他者は魅惑のキーワードと認識してくれて盛り上がります。それから、上記に挙げた有名観光場所や、銘菓、インフラの充実度、ふるさと納税寄付に対する返礼品なども紹介しています。すると山口に行ってみたいと言ってくれる方が多いですね。

他に紹介するものとして、最近ではマイブームが萩焼と話します。読者の皆様はどうしても萩市をイメージされると思いますが、土自体は大道から取れることもあり、最近では山口市内でも萩焼体験ができます。幼少期は当たり前すぎて全く興味がなかった萩焼も、自分で作ると愛着いっぱいです。他にも大内塗り等、山口独自の体験場所があるのでそちらもお勧めしています。それと話は変わり、私は小鯖の地ビール園によく行きます。日本のビールは薄すぎてビールではないと言う外人を連れて行くと、これぞビールだと絶賛されたこともあります。自己紹介の時にも話すと興味もっていただけます。

最近ではCovid-19対策として、オンラインでの業務が可能になりました（私は1年に数回しか職場に出なくなり、今年もまだ1回だけ）。山口市でも業務可能になりましたので、コロナが落ち着けば定期的な移動頻度を増やして、山口市の魅力を発信していきたいと思います。会員の皆様には、引き続きご指導いただけますようお願い申し上げます。



山口市で焼いた萩焼
：シーサーの阿吽

山口七夕会初の試み「ストリートピアノとコラボイベント」開催

本部・幹事長 関 周 (会員 No. 726)

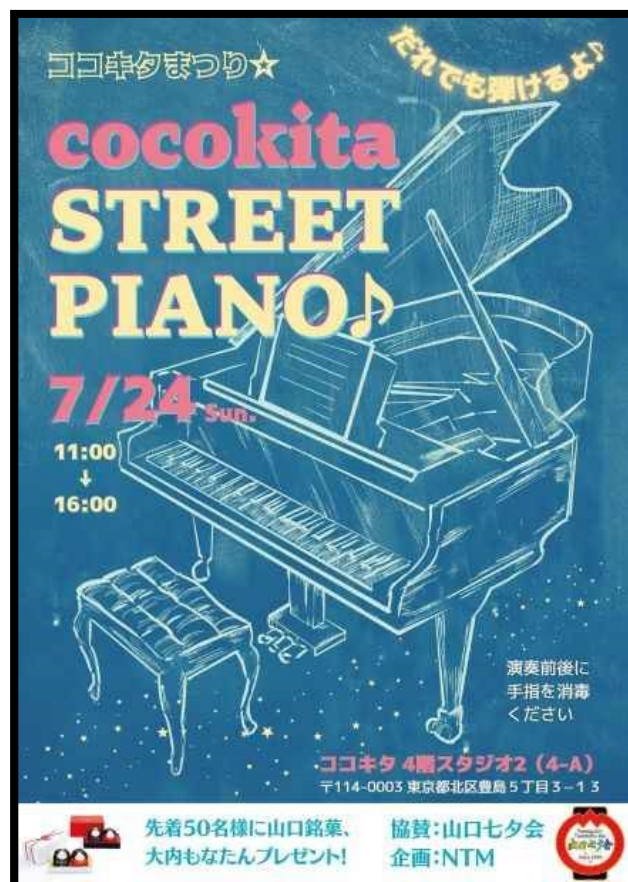
7月24日(日)、東京都北区文化振興財団が運営する「ココキタ」に於いて、山口七夕会とストリートピアノとのコラボイベントを開催しました。

会場内に設置されたグランドピアノを弾いてくださった方に、山口銘菓「大内もなたん」を先着50名様にプレゼントするという企画ですが、発信力のあるストリートピアニストがツイッターやインスタグラムで事前告知してくれたおかげで、当日は100名以上の来場者があり、大盛況でした。

山口七夕会の秋草会長も奥様と駆け付けて、ベートーヴェンを少しだけ奏でて下さいました。誰でも気軽に参加出来るのがストリートピアノイベントの醍醐味です。

1日限りのイベントでしたが、山口七夕会及び山口銘菓のPRにお役に立てたと思います。

以下、当日の楽しい雰囲気写真を写真でお届けします！



上左：こんな感じでした
上右：“大内もなたん” もらって笑顔
下左：“大内もなたん” を渡す岡崎幹事



旗もしっかり飾りました！



お母さんのピアノ演奏❤️



イベント後にはこんなツイートが！

=== ノリ・海苔こそ百薬の長 ===

副会長／会長代行 渡邊 史信（会員 No. 364）

子供の時、小腹が空けば畑で採れる「トマト・きゅうり・スイカ」、ご近所や山でなっている「柿・いちじく・ナツメ（棗）・あけび・ぐみ」といったものも大好物でした。また「海苔、昆布、いりこ」はいつもカンカン（缶）に入っておりボリボリ食べていました。学生の頃まだ新幹線が岡山止まりの時は当時のL特急の車内にいりこや昆布を持ち込んで食べておりました。今も「海苔・昆布・いりこ」は常時我が家の常備品です。そのせい有ってか、お蔭様で歯は親知らず3本抜いただけで現在29本そのまま虫歯知らず、歯医者知らずで来ております。92歳の母親に感謝！

さて、私は以前宇部エクシモ社（旧宇部日東化成）の社長経験があり、同社はノリや牡蠣養殖用支柱や農業・建設資材にも使用されるFRPコンポーズパイプの最大手メーカーでもあります。今回はその折仕入れたノリ養殖に関してのお話です。

「ノリ・海苔」のテーマは余りに深くて素人の手に負えませんので、私の理解の範囲内で先ず歴史をひもとくと・・・文字伝来以前のことは化石も記録もなく、とにかくずっとずっと古より食されていたと専門家も推定しているようです。大和言葉に海藻を示す語尾として「メ(幅広)」「モ(塊で揺れるもの)」「ノリ(短小な藻)」があったようです。又701年の大宝律令やその後の養老律令において粗庸調の税制が確立しますが、ノリ・藻類は調の中で重要な位置を占めていました。税をノリで払うという時代でもあったのです。又高価な希少性なもので平安時代の貴族では五位以上の貴族でしか口に出来なかったそうです。

これが家康江戸入府のころは、まだ今の浅草寺あたりは江戸湾に面しており、そこで今は絶滅寸前の「アサクサノリ」という種類のノリが僅かに収穫されていたようです。江戸初期になると品川の漁民が将軍に献上する御膳魚を、悪天候や不漁に備えて生簀を枝竹の柵囲いで飼う？ようになり、この柵にノリが好んで繁茂することを発見しました。これは「日々網籠朶（ひびあみそだ）」と呼ばれ現在の養殖用の網等を言う「ヒビ」の語源になったのではという説が有力です。そして本格的に江戸湾品川・大井・大森付近でのノリ養殖が始まりました。

今のブランド「浅草海苔」は浅草紙の紙漉き技法で今良く知っている海苔の形に仕上げたもので、当時陸地化していた浅草がノリの集散地となったのがその名前の起こりだったそうです。ノリの種類の「アサクサノリ」と同じですので混同されませんように。ようやく庶民にも手の届く海苔になったわけですが、現在の養殖ノリはアサクサノリもその系列に含む「紅藻アマノリ種（甘ノリ）」のノリが主流なようです。

近代的なノリ養殖が今日のように発展してきた陰に、ある英国女性が発見した日本のノリ養殖に対する大いなる貢献があったことは余り知られていません。その女性はキャサリン・メアリー・ドリュー（1901-1957）女史です。1949年10月、科学雑誌「ネイチャー」に発表した論文は、「チシマクロノリ（ノリの一種）の雌から放出された胞子を貝殻に付着させたところ、発芽して貝殻の中に潜り込み、すでにコンコセリスと命名されていた海藻と全く区別のつかない菌糸状の体になった」という内容です。更に親交のあった九州大学瀬川宗吉教授に「ノリが春先に成体から放出された胞子が夏場は糸状体になって貝殻（発見はカキ殻）に穿孔して過ごす」という発見を連絡してきたのです。それまで日本では秋に胞子をヒビに付着させ葉態が成長するのを待って採集していましたが、胞子が夏の間どう過ごしているのかは分かっていませんでした。この発見・科学的解明・養殖技術の確立により胞子を糸状体で管理して人工的にノリの種として付着させる人工採苗法が確立したのです。ドリュー女史を顕彰して「ノリ養殖の母」として今も熊本県宇土市ではドリュー祭が行われているそうです。ちなみに「父」は誰かは、又いるかどうかは知りません。

さて、ここで「ホタテ→牡蠣→ノリ」とつながるお話です。いずれも養殖されていますが、先ずホタテの貝殻は牡蠣の種付けに利用されています。広島のお牡蠣養殖場を見学した時も大量のホタテ貝殻がありました。そして、次は何と、牡蠣殻がノリの胞子の生育用に使用されているのです。上記ドリュー女史の発見も牡蠣殻に付いた糸状体が契機となりました。有明海のノリの養殖場にも大量の牡蠣殻があります。ノリの胞子はこうしたホタテ→牡蠣→ノリという旅と絆の中で成長しているのです。感慨深いものがありますね。



ノリ胞子育成用牡蠣殻

有明海はノリの一大産地として知られています。独特の集団管理体制による基盤の目状養殖区画の徹底、養殖技術・漁場環境の改善等行われています。漁期は晩秋から春先までです。有明海には大小 112 の河川が流れ込み、豊富な栄養を運んできます。「山が海を育てる」事の典型でしょう。適度な淡水と海水の混合とともに、干満の差が最大で 6 m にもなる潮流で、豊富な栄養が行き渡り、又 1 日二回「干出」と言われる海面より上にノリ網が出ます。その干潮時に太陽の光を直接浴び、満潮時には海水中で栄養をたっぷり吸収するのです。そしてやわらかさ・旨味の凝縮した味わい深いノリが育ちます。この有明海にはヒビを支える支柱が約 500 万本近く使われており、その中で宇部エクシモ社製のコンポーズが 95% 以上という圧倒的なシェアを誇っています。



ノリヒビによる雄大な養殖風景
支柱はFRPコンポーズ

佐賀県有明海漁業協同組合の海苔の品質規格は 100 以上にも細かく分類され、プロの厳しい判断で安全・安心・品質が守られています。さて私達が入手する海苔の基本的な大きさはいくらかご存知ですか？一枚あたり約 3g で横 19 センチ、縦 21 センチです。何故その大きさか？尺貫法で 19 センチは 6 尺 3 分、21 センチは 7 寸で、これは浅草紙の形を起源にもつそうです。



ノリ採集風景

最後に皆さんご関心の栄養と健康維持について

「海の大豆・緑黄色野菜」と称されるノリは、食物繊維は勿論のこと必要とされるミネラルとビタミンのほぼ全てを大量に含んでいます。同量比較でビタミン A はウナギの 3 倍、ビタミン C はハウレン草の 2 倍、B2 は卵の 7 倍です。更に海水中に存在する全てのミネラルやリジン以外の必須アミノ酸全てを大量に含んでいるそうです。加えてノリの細胞にある多糖類のポルフィランも抗癌作用があり、アミノ酸のタウリンはコレステロール低下作用や血圧の正常化に良いとされるものです。海の恵みの国民食ノリ・海苔をのりのりでどんどん食べて健康を維持しましょう！！

筆者注) 海産物としては「ノリ」、製品になったのを「海苔」と勝手ながら書き分けました。
写真は宇部エクシモ社社員撮影。

(参考文献)「佐賀海苔おもしろ読本」新うまい佐賀のりづくり運動推進本部発行、
第一製網株式会社 HP、社団法人海苔増殖振興会 HP 他

ベンチャーズは永遠のアイドル

岡田 正明 (会員 No. 683)

中学の時に出会ったベンチャーズのテケテケサウンド、身体に雷が落ちたような衝撃を感じた！あれから55年、68歳になった今でも、色褪せないサウンドに魅了され続けている。

思い起こせば、中学校2年の時にバンドを組み、ベンチャーズの真似事をやって楽しんで、「パイプライン」などの入門曲をコピーして、自宅でガチャガチャやっていた。ビデオなどの映像は無いから、レコードだけが頼り、いわゆる耳コピだった。そんなバンドも高校入学と共に自然消滅、音楽に触れる時間も全く無くなった。

随分と長い時が経ち、再びベンチャーズに傾倒したのは、なんと50歳前だった。たまたま、親父バンドブームが起こり、自分もその気になったのだ(笑)。音楽に興味がある仕事仲間へ声をかけ、「ベンチャーズ」を結成した。何十年もエレキギターを弾いていなかったので猛練習をしたが、なかなか上手くは弾けなかった。メンバー交代もありながら、何とか人前でライブが出来るようになった頃である、懇意にさせていただいていたホテルの社長さんから、「うちのホテルのディナーショーで2夜連続の演奏をしてくれんか？200人以上は呼ぶから。」と。一瞬耳を疑った、我々の演奏を一度も聴いたことの無い社長さんからの言葉だった。自分も度胸があったと思うが、二つ返事で受けてしまった(笑&汗)。ホテルにとって大切なビジネスであるディナーショーを台無しには出来ないと、メンバーと練習を重ね、本番を迎えた。ベンチャーズサウンドが似合う夏だったこともあり、会場は大入り満員だった。何とか成功裏に終わり、お客さまの反応も上々だった。結局、翌年も演奏することになった。

思い出は尽きないが、アマチュアとしてバンド活動が続いている今、さまざまな人との出会い、音楽を通しての感動や喜びをもたらしてくれるベンチャーズに心から感謝をしている。僕らのアイドルだった当時のオリジナルメンバーは全員天国に旅立ってしまった。もうあのサウンドを生で聴くことはできない。寂しさが募るばかりだが、自分たちが後何年演奏できるか分からないが、生きている限りライブ活動が続けることが目標であり、大切だと思っている。 ベンチャーズ・フォー・エバー！！



テケテケサウンドを生み出す
モズライトギター



結成当時の「ベンチャーズ」



現役ギター小僧「ノンキー岡田」

令和4年度山口七夕会ふるさと山口本部「夏の講演・交流会」(報告)

ふるさと山口本部・副本部長 庄 栄一郎(会員No.475)

令和4年8月14日18時から、湯田温泉の「西の雅 常磐」で3年ぶりに、講演会52名、交流会42名の参加で開催された。

講演会に先立ち、申神本部長からコロナ禍の中、参加していただいた皆様へのお礼の挨拶があり、伊藤市長からは本会の山口市の発展に対する協力に対する感謝とお礼、市長が部長時代に地域おこし協力隊として着任された粉川さんとの思い出と講演に対する期待が述べられた。

その後、7月30日に東京で開催された山口七夕会年次総会の報告が東京本部の渡邊史信副会長と山口本部より総会に出席した松西事務局長より総会資料をスクリーンに映して行われた。

18時15分より、イタリア食堂ベケのオーナーシェフ、粉川(こかわ)妙さんより、演題「意外と似てる イタリアと山口～よそ者視点と地域おこしと都市計画～」の講演。

「似ている点と」して、粉川さんがおられたイタリアのスポレート市は古い街並み残る町で「自然と都市部が近い」、「文化度が高い」という点は山口市と同じ。イタリアで女性が街を歩いていると、後ろからクラクションを鳴らされるのは、美人かどうかを確かめるためだが、日本では？。

また「今熱い 山口ポイント よそ者視点」として「農山村部、都市部共通型への舵取り」の必要性、伊藤市長が農業に力を入れておられること、山口市の地域の産業間の横の繋がりが熱いことなど事例を交えての講話。

講演最後には会場に来られていたご主人のロベルト・ピピリさんにも登壇していただき、夫婦に感謝の拍手で講演は締めくくられた。

交流会は会場を隣に移し19時10分から。急遽出席がかなわなくなった入江議長にかわって冨田副議長が入江議長の熱い想いを代弁しての乾杯のご発声で交流会が始まった。

開会直後、総務大臣政務官にご就任された杉田水脈衆議院議員にもご挨拶をしていただいた。

その後、会員からの情報提供を二つ。梶山さん(元東京本部長)より、今年の「山口七夕ちょうちんまつり」の火入れを有志が手伝っている写真をスクリーンに映しながら、山口七夕会の原点である「山口七夕ちょうちんまつり in 世田谷」について、と瑠璃光寺ご住職の渡邊博志さんより、「瑠璃光寺五重塔修復への協力」のお願いがあった。

余興としては二つ。会員の関さんより大きなスイカや徳佐のコシヒカリ「田楽米」、松西さんより「てるみんガーデンファーム」の野菜を無償で提供していただき、スイカの重量当てクイズや申神本部長の音頭で大ジャンケン大会。

恒例の総踊りは、プロ野球の日本ハムファイターズのチアガールが踊って人気急上昇中の「キツネダンス」。

参加者には事前に動画で知らせていたこともあり、伊藤市長は元より93歳の福田百合子先生にも踊っていただき、まさに参加者全員による総踊りとなった。ただ後日参加者より「総踊りはビシッと決めましょう」と言われ、総踊りの精度は次回への課題となった。

21時10分、松西事務局長による中締め的一本締めで会を閉じた。



参加者全員でコンコンの「キツネポーズ」

【講師の寄稿】

これが私の〈第二の〉ふるさとだ よそ者が見る山口市

イタリア食堂ベケ!? オーナーシェフ 粉川 妙

移住者として中部イタリアのスポレートという街から山口市に来たのが2016年。地域おこし協力隊として山口市の観光交流課に所属し『アートで大殿の交流人口を増やす』というテーマで働きました。最終面接で初めて山口の地を踏んだ際、直感的に夫のロベルトはこの町が気に入る…と思いました。都市部の真ん中には一の坂川が流れ、中国山地の入口とも言える鳳凰山のすそに広がる古い街並みは、便利だけど自然に癒される、ヨーロッパ的な都市構成に似てると感じました。

その一の坂川沿岸の後河原エリアで、茶室を改造した古民家に住めたことも、ロベルトにとっては良い経験でした。画家である彼のインスピレーションをかきたてた日本家屋の縦と横の線や、手水鉢や外柱を支える杢の丸みは、初期に描いた抽象画に影響を及ぼしました。また彼の愛する榎野川や新鰐石橋は、後に第72回県美術展覧会で大賞を頂く『榎野川沿いのイノシシの行進』のモチーフとなりました。ぼたん雪の降る榎野川を背景にイノシシの親子を生き生きと描いています。



私は1975年(昭和50年)姫路市で生まれ、加古郡播磨町という神戸のベッタウンで大学まで育ちました。甲南大学卒業後、製菓会社の営業職につき、北関東(宇都宮)、大阪と転勤し、29歳の時、一念発起してイタリアへ食の留学のため渡りました。イタリア料理を専門としたライターを志望してのことです。そこで『スローフード』を学び、マクドナルドを代表する便利で画一的な食が、多様で伝統的な地場の食を呑み込もうとしている現実には危機感をもつイタリア人を見ました。北イタリアの田舎町ブラで興ったスローフード協会は、出版部門ではグルメ本が成功し、都市部のグルマンたちを、田園の美味なるレストランへと引っ張り出しました。また2年ごとに開催される食の祭典サローネ・デル・グストでは、全世界の生産者が集結し、ワークショップを通して学び、讃えあい、田舎でひたむきに働く生産者たちに誇りを与えました。スローフードのオシャレな響きとは裏腹に、持続可能で質実剛健な運動を展開するのが、欧州のやり方です。

地域おこし協力隊の任期が終了した2019年には、夫の希望でイタリアンレストランを、私たちの愛する大殿地区(八坂神社、河村写真館向かい)にオープンし、今に至ります。

コロナ禍で時世を読むのが難しいなか、自営業ゆえか、また山口市総合計画策定協議会に、地域活性の専門家として参画しているおかげか、すこし山口市の現状が分かる気がします。山口市は、今、農山村部(南部、阿東、徳地)が熱いです。農業従事者や製造販売業、商工会などが手を取り、横のコミュニティを作り、新しい流れやサービス、新商品を生みだそうとしています。その渦のなかで、地域おこし協力隊のOBや、市役所を早期退職して旅行会社を立ち上げた、山口愛溢れる方が、活躍しています。

また今年(令和4年度)から、山口市役所の編成が変わり、農林水産部が誕生。部内には農業政策課に加えて、定住促進課も所属しており、マンパワーも農山村部に割く覚悟です。『山口市総合計画』が目指す山口市の未来像は、都市部と農山村部が豊かに持続すること。そのために農山村部にも力を入れる節目に来ており、このような取り組みは、渡辺純忠市長から次の伊藤和貴市長にスムーズに移行できたからこそ成しえたことで、引継ぎの鮮やかさ(無駄がないどころか加速している)に、よそ者として一目置いています。

そして都市部は二拠点(新山口駅と山口駅や商店街エリア)を核に、ユニークに大胆に、農山村部とも連携して、充実を図っていく必要があります。飲食業を営む私はこちらのパートですね。目下インバウンド(キャッシュレスや多言語対応、ベジタリアン対応)をすすめています。



私の目指す街は、トスカーナ州シエナという街の市庁舎にある Fresco 画『善政の寓意』に描かれています。ルネッサンス初期のA.ロレンツェッティの作品で、善政が行われれば民は幸せになる…という内容です。良い為政者のもと、城壁内では市場が立ち、庶民はいきいきと生活し、街は整然としています。城壁外には農民たちが汗を流し、彼らが開墾した美田が広がります。都市部と農山村部がともに発展することが、「根源的に人間社会にとっての幸せ」なんだと、それを見た20年前から思っていました。私や夫にとって山口市は第二のふるさとです。ふるさとのより良い充実を願います。

<新入会員及び法人会員の皆さん>

《4年6月以降の新入会員》

会員番号	氏名	住所
820	山本 カヨ	山口県山口市
821	飛田 明美	山口県山口市
822	佐伯 嘉章	山口県山口市
823	倉本 徳久	山口県山口市
824	今津 英敏	神奈川県相模原市
825	葛見 雅之	東京都大田区
826	川俣 康則	埼玉県朝霞市
827	松田 達行	埼玉県入間市
828	高村 正大	東京都武蔵野市
829	中上 崇	山口県山口市
830	渡邊 博志	山口県山口市
831	富田 正朗	山口県山口市

《全法人会員》

法人名
山口日産自動車株式会社
旭水産有限会社
株式会社常盤
株式会社地域情報新聞
株式会社技工団
有限会社劇団角笛
オンガネジャパン株式会社
一般社団法人平成の萩往還・中山間地振興をめざす会
マルシフードサービス株式会社
社会福祉法人青藍会
株式会社セブンシステム
株式会社光華
株式会社ベルミューズ
一般社団法人日本自動車連盟 山口支部 (JAF 山口支部)
一般社団法人ノーチラス・デザイン・ワークス
BRAIN SIGNAL 株式会社
弁護士法人末永法律事務所
株式会社アドギルド・ジャパン
公益社団法人山口被害者支援センター
株式会社小郡衛生公社
株式会社エフエム山口東京支社
株式会社竹内酒造場
C&C 山口
湯田温泉旅館協同組合
公立学校共済組合山口宿泊所 セントコア山口

令和4年8月末現在の会員数:個人会員 374 人、法人会員 25 法人

<新任の山口七夕ふるさと大使>

花柳 寿寛福 (会員 No.617) さん (4.7.30 委嘱)

「 役員一覧(令和4年7月30日付) 」

※が変更部分

<山口七夕会役員>

役 職	氏 名	備 考
会長	秋草史幸	代表、総会・評議員会議長
副会長・評議員	渡邊史信	会長補佐 兼 会長代行
副会長・評議員	奥原 保	会長補佐
副会長・評議員	藤井謙志	会長補佐 兼 本部長
副会長・評議員	申神正子	ふるさと山口本部長
※評議員	関 周	本部幹事長・会計
※評議員	松西照美	ふるさと山口本部事務局長
監査役	大枝幹夫	
※監査役	伊藤満宏	在山市
顧問	石田順康	
顧問	山本和生	在山市
顧問	繁永俊之	山口県東京事務所長
顧問	八木重二郎	
※顧問	渡辺純忠	前山市長

<ふるさと山口本部役員>

山口本部役職	氏 名
本部長	申神正子
副本部長	庄栄一郎
事務局長	松西照美
事務局長補佐	柴田尊明
事務局長補佐	濱野文彦
会計	中野邦夫
楽農部会長	関 和貴
日本酒部会長	嘉瀬 修
音楽部会長	坂本哲也
事務局	村田常雄
事務局	仙田達夫
事務局	吉原真也
事務局	杉本理恵子
事務局	※馬越尚史
事務局	※森永友世志
監事	原田茂樹
監事	国光文夫
顧問	瀬川英顕
顧問	吉田正治
顧問	吉田充宏
アドバイザー	山下憲治

<本部役員>

本部役職	氏 名	役 割
本部長	藤井謙志	本部統括
本部長代行	西村弘文	機関誌編集長
副本部長	岡本達也	本部長補佐
幹事長	関 周	会務総括・会計・情報発信
副幹事長	村中正司	関西常駐
幹事	引頭和江	幹事長補佐
幹事	田中美旋律	イベント企画
幹事	田村廣修	本部長補佐・七夕会HP管理
幹事	小野美穂子	本部長補佐
幹事	藤村幸絵	広報
幹事	岡崎龍也	イベント企画
※幹事	山根洋平	次世代会員増強
顧問	武内衛子	本部顧問
顧問	山根和也	本部顧問

< イベント予告 ・ ふるさと山口本部 >

<平成4年度山口七夕会ふるさと本部「秋の講演・交流会」>

日時：令和4年11月19日（土）講演会 18：00～19：00 交流会 19：00～21：00

場所：セントコア山口

山口市湯田温泉3丁目2-7

講演：「激動する安全保障環境」 元 陸上総隊司令官 住田 和明 氏

会費：6,000円（講演会のみは1,000円、30歳未満は3,000円）

詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

お申込みは、同封のチラシを参照の上、11月9日（水）までをお願いします。

< イベント予告 ・ 本部 >

<第6回八木重二郎杯 会員親睦ゴルフ>

日時：令和4年11月4日（金）8：49 OUTスタート（8：20集合）

場所：PGM武蔵ゴルフ倶楽部

埼玉県比企郡鳩山町大字小用1026番地

会費：約20,000円（プレー費）＋飲食費（昼食／表彰式：各自清算）

☆同クラブハウス内レストランにて表彰式

お申込みは、同封のチラシを参照の上、10月20日（木）までをお願いします。

< 昼下がりのJazz ～山口市の銘酒と共に～ >

日時：令和4年11月20日（日）12：00～14：30（受付開始11：30）

場所：「インテリジェントロビー・ルコ」

東京都新宿区揚場町 2-1 軽子坂MNビル 1F（JR/地下鉄 飯田橋）

出演者：Sax.飛松 賢二 Pf.関 周（サポート）

内容：食事と日本酒とジャズライブ

会費：5,000円

詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

お申込みは、チラシ裏面の出欠連絡票をご利用ください。先着70名様までです。

<秋の紅葉ウォーキング>

日時：令和4年12月3日（土） 9：00～14：00

集合：JR山手線駒込駅南口／メトロ南北線駒込駅3番出口（コンビニNew Days前）

ルート：駒込駅 ⇒ 六義園 ⇒ 旧古河庭園 ⇒ 巣鴨地藏通り商店街 ⇒ とげぬき地藏尊
⇒ 懇親の宴（参加費3千円程度／予定） ⇒ 解散

詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

お申込みは、チラシ裏面の出欠連絡票をご利用ください。11月18日（金）までをお願いします。

< 会報山口七夕会 への投稿を募集します >

皆様からの投稿を募集しています。

1. 表紙の書、写真、挿絵（山口ゆかりの写真、挿絵等）
2. 大使の一言（「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介やメッセージ）
3. 私の一言（皆さんから伝えたいことや山口の蘊蓄 等）

★字数：1,200～1,400 字程度（写真を 2 枚程度）

★投稿締切：1 月号掲載の場合は 12 月初旬、6 月号掲載の場合は 5 月中旬必着

★投稿提出先 編集長・西村のメールアドレス「joe-levin01@outlook.jp」へ、電子データ（Word、テキスト形式など）でお送りください

【編集後記】

この夏の吉報は、甲子園での下関国際高校の活躍でしょう。優勝できなかったとはいえ、山口勢として37年ぶりの準優勝を果たしてくれました。チーム一丸となって一心不乱に闘う姿は、多くの人の心を沸き立たせてくれました。選手をはじめ、関係者の方々はお疲れ様でした。

私にはもう一つ嬉しいことがありました。それは、本号に「大使の一言」と「私の一言」を納めることが出来たことです。

偶然ではありますが、私は平成24年頃に山口市でアマチュアバンドの発表会を聴きに行き、ベンチャーズのパイプライン(勿論コピー)を聴いたことがありました。ノンキー岡田さんの寄稿にあるベンチャーズの写真を見るに、時々呑みに行っていた「呑み処・Y」にて仲良くなった、ギター好きのDr. Hに似た人が写っていました。岡田さんに「実は・・・」とメールしたところ、話が符合し、あのベンチャーズもどきがベンチャーズであった事が判明しました。会報の記事によって新たな繋がりが出来たことに、大袈裟ながら心が動きました。

会報の使命は、山口七夕会の活動を記録することと、会員の皆さんに発信の場を提供することだと思っています。記事を通じて発見することは多々あります。会報を通じて会員相互の紐帯が強くなればと願っています。

編集長(本部・本部長代行) 西村弘文

【事務局からのご案内】

- ◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと会報 山口七夕会や市報等の資料が届かなくなってしまう)
- ◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

★山口七夕会事務局(山口市企画経営課内)
〒753-8650 山口市亀山町2番1号
TEL 083-934-2746
kikaku@city.yamaguchi.lg.jp